

第5章 松山遺跡第62地点の本調査

遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中・近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷲森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

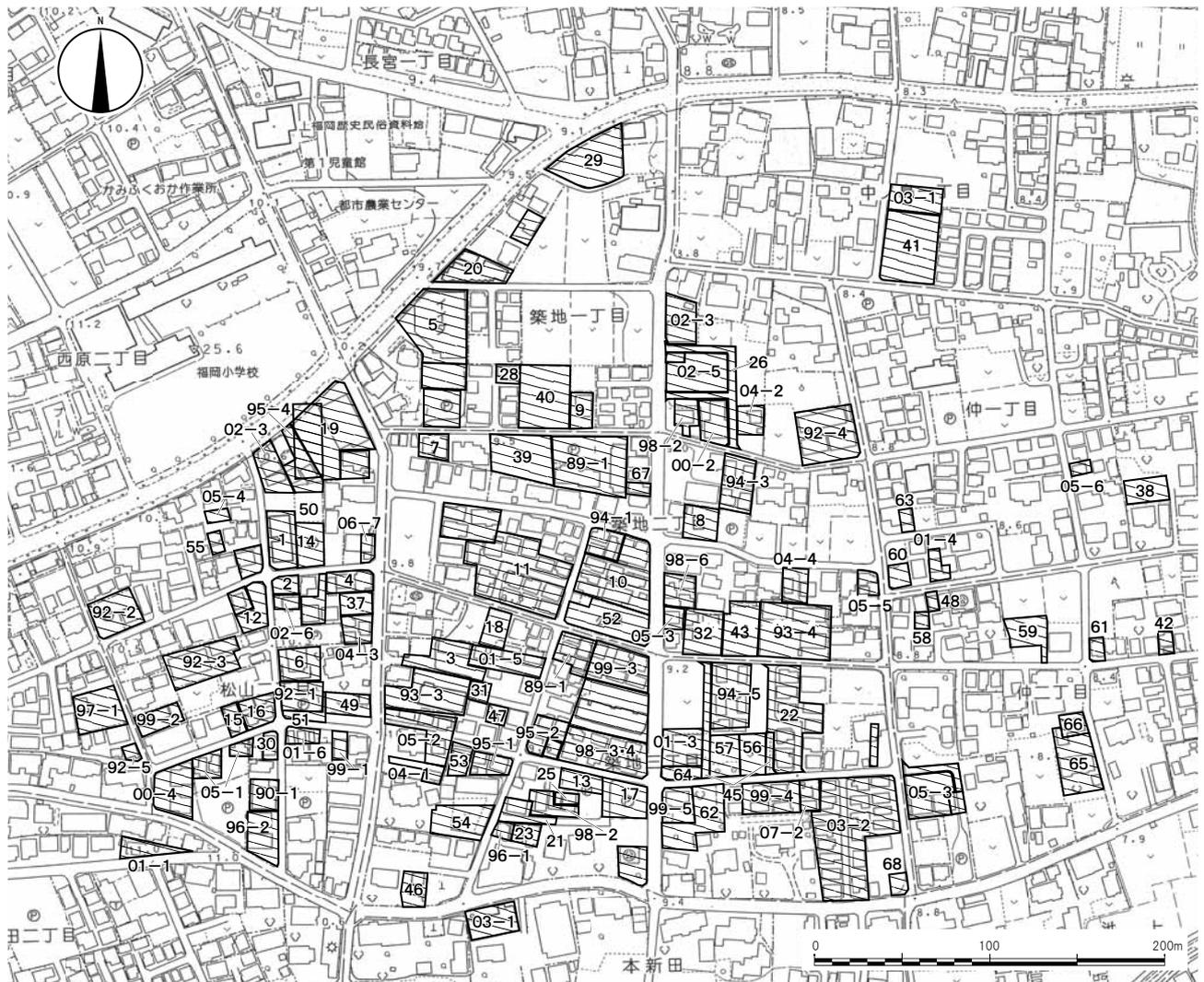
1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構

は、遺跡の南側に縄文時代中期の住居跡、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中・近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝・井戸等の中・近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

本調査に至る経過と調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2012年5月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構等の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年6月11日から21日まで行った。幅約1～1.5mのトレンチ8本を設定し、重機で表土



第56図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第19表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1次	松山2-5-4	1978.10.14 ~ 11.6	479		住居跡2軒	埋()
2次	松山2-6-7	1979.4.26 ~ 5.1	161		住居跡1、土師器	埋()
3次	築地3-1-20	1979.8.7 ~ 16	733		住居跡1、土師器	埋()
4次	松山2丁目6-9	1982.9.13 ~ 24	277		遺構なし、平安土器	埋()
5次	築地1丁目1-16	1983.4.20 ~ 28	1,461	住宅建設	なし	埋()
6次	松山2-6-16	1984.8.13 ~ 28	330	住宅建設	溝1、土坑5	埋()
7次	築地2-3-19	1986.1.13 ~ 21	237	個人住宅	溝1	埋()
8次	築地2-4-12	1986.7.1 ~ 8	319	個人資材置場	平安土器散布地	埋()
9次	築地1-1-50	1987.10.1 ~ 3	288	個人住宅	なし	埋()
88試	築地3-3-4	(1989.1.9.10)	370	住宅建設	なし	埋(11)
89試	築地2-3-11	(1989.6.27 ~ 30)	1,342	共同住宅	なし	埋(12)
90試	松山2-2-9	(1990.9.7 ~ 12)	304	個人住宅	なし	埋(13)
10次	築地2-2-6	1991.10.14 ~ 18	450	個人住宅	平安住居跡(国分期)2、溝1	埋(14)
11次	築地2-1-10	1991.10.18 ~ 21	2,029	宅地造成	平安住居跡(国分期)1、溝1、土坑2、井戸状遺構1	埋(14)
92試(1)	松山2-6-22.23	(1992.4.17 ~ 24)	567	駐車場	なし	埋(15)
92試(2)	松山2-4-7	(1992.5.6 ~ 11)	571	駐車場	なし	埋(15)
12次	松山2-3-11	1992.5.12 ~ 20	393	宅地造成	平安井戸跡1	埋(15)
13次	築地3-2-18	1992.5.18 ~ 30	234	宅地造成	平安住居跡1	埋(15)
14次	松山2-5-17	(1992.5.21 ~ 30)	432	宅地造成	中世井戸跡2	埋(15)
92試(3)	松山2-3-31.13	(1992.6.12 ~ 18)	871	宅地造成	なし	埋(15)
92試(4)	築地1-3-17	(1992.6.3 ~ 11)	998	共同住宅	溝遺構、井戸状遺構	埋(15)
92試(5)	松山1-4-32	(1992.10.30)	78.4	共同住宅	なし	埋(15)
93試(1)	松山2-3-1	(1993.4.5 ~ 16)	509	宅地造成	なし	埋(16)
15次	松山2-3-41	1993.4.19 ~ 28	148	個人住宅	平安住居跡1	埋(16)
17次	築地3-2-19	1993.5.10 ~ 24	597	駐車場	古墳末期住居跡1	埋(16)
16次	松山2-3-43.44	1993.7.2 ~ 15	156	個人住宅	平安住居跡1	埋(16)
93試(3)	築地3-1-17.31	(1993.10.15 ~ 20)	994	共同住宅	なし	埋(16)
93試(4)	築地2-5-2の一部	(1993.10.22 ~ 26)	1,246	共同住宅	なし	埋(16)
18次	築地3-1-16	1993.12.1 ~ 7	290	駐車場	奈良末 - 平安住居跡1	5年教要
19次	松山2-5-9	1994.1.17 ~ 2.3	1,531	貸店舗	平安住居跡2、溝跡1	上遺調3 集 松山遺跡第19次調査概報
94試(1)	築地2-2-3	(1994.5.30)	310	分譲住宅	なし	埋(17)
20次	築地1-2-4	1994.6.24 ~ 7.1	559	共同住宅	古墳末期住居跡1、土師器、須恵器破片	埋(17)、上遺調5集
94試(3)	築地2-4-7	(1994.8.3 ~ 12)	532	宅地造成	なし	埋(17)
95試(1)	築地3-1-9.10	(1995.5.10 ~ 19)	303	宅地造成	なし	埋(18)
95試(2)	築地3-3-2	(1995.5.22 ~ 6.15)	542	宅地造成	古墳末期住居跡1	埋(18)
95試(3)	築地3-2-23	(1995.10.17 ~ 20)	153	個人住宅	なし	埋(18)
21次	築地3-2-23	1995.10.17 ~ 20	378	市道敷設	古墳末期住居跡1	埋(18)
95試(4)	松山2-5-8.16	(1995.12.22)	413	宅地造成	なし	埋(18)
96試(2)	松山2-2-1	(1996.7.22 ~ 24)	489	宅地造成	溝1(時期不明)	埋(19)
97試(1)	松山1-4-17	(1997.9.11 ~ 18)	591	個人住宅	なし	埋(20)
22次	築地3-4-15.23	1997.12.15 ~ 24	419	個人住宅	平安初頭住居跡1、奈良末期掘立柱建物3、縄文集石土坑7、土師器、須恵器、埴土土器、墨書土器1	埋(20)
98試(1)	築地3-2-13.24	(1998.4.16)	240	宅地造成	23次調査参照	埋(21)
98試(2)	築地3-2-23外2筆	(1998.4.17.5.20 ~ 22)	450	宅地造成	なし	埋(21)
98試(3.4)	築地3-3-1	(1998.4.20 ~ 5.20)	922	宅地造成	中近世溝1ほか	埋(21)
23次	築地3-2-24の一部	1998.5.11 ~ 14	120	個人住宅	奈良後半住居跡1	埋(21)
98試(5)	築地1-3-18	(1998.7.1)	167	個人住宅	なし	埋(21)
24次	築地3-2-4の一部	1998.9.8 ~ 21	50	農地改良	飛鳥住居跡1	埋(21)
98試(6)	築地2-5-6	(1998.9.1 ~ 4)	363	個人住宅	なし	埋(21)
25次	築地3-2-23外2筆	1999.3.3 ~ 12	240	個人住宅	奈良初頭住居跡2	埋(21)
99試(1)	松山2-1-10	(1999.4.16)	166	個人住宅	なし	埋(22)
99試(2)	松山2-3-3	(1999.5.6 ~ 12)	340		溝1(時期不明)	埋(22)
99試(3)	築地3-3-14.15	(1999.6.22 ~ 24)	778	宅地造成	なし	埋(22)
99試(4)	築地3-5-15の一部.24.27	(1999.8.2 ~ 6)	745	(分譲)	ビット5(平安?)	埋(22)
99試(5)	築地3-5-28	(1999.8.26 ~ 9.1)	331	個人住宅	溝1(時期不明)	埋(22)
26次	築地1-3-21	2000.5.15 ~ 6.2 (2000.4.27 ~ 5.12)	627	市道設置	井戸2、竪穴住居跡1、土師器、須恵器、陶磁器片	埋(23)
00試(2)	築地1-3-5.25.27.35	(2000.5.17 ~ 25)	687	共同住宅	土坑1	埋(23)
27次	仲2-1-10の一部	2000.6.12 ~ 7.3 (2000.5.22 ~ 6.8)	912	共同住宅建設及び市道設置	奈良竪穴住居跡1、土師器、須恵器、陶磁器片	埋(23)

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
00試(4)	松山2-2-5	(2000.10.30)	592	共同住宅	なし	埋(23)
28次	築地1-1-28	2001.2.8 ~ 21	165	個人住宅	奈良住居跡1	埋(23)
00試(5)	築地3-1-28	(2001.2.2 ~ 13)	614	宅地造成	飛鳥 - 奈良住居跡1	埋(23)
00試(6)	松山2-1-8.17	(2001.3.21)	174	(分譲)	なし	12年教要
01試(1)	新田2-450-1	(2001.4.12 ~ 13)	204	個人住宅	なし	埋(24)
01試(2)	仲2-1-10	(2001.5 ~ 18)	168	地区計画道路	近代以降溝3	埋(24)
01試(3)	築地3-4-10	(2001.5.10 ~ 15)	434	共同住宅	なし	埋(24)
01試(4)	仲1-1-2.3.14	(2001.9.12)	694	個人住宅	なし	埋(24)
02試(1)	築地1-2-8	(2002.5.20 ~ 23)	978	遺構所在確認	竪穴住居跡1	埋(25)
02試(2)	築地3-5-35.36	(2002.7.11)	248	宅地造成(分譲)	なし	埋(25)
29次	築地1-2-8の一部	2002.7.2 ~ 8.9	36	個人住宅	竪穴住居跡1	埋(25)
02試(3)	松山2-5-7	(2002.8.5)	358	宅地造成(分譲)	なし	埋(25)
02試(4)	築地1-3-28	(2002.8.20 ~ 21)	479	共同住宅	なし	埋(25)
02試(5)	築地1-3-22.25.30	(2002.8.22 ~ 28)	640	遺構所在確認	竪穴住居跡1【盛土保存】	埋(25)
02試(6)	松山2-6-5	(2002.9.9)	147	個人住宅	なし	埋(25)
03試(1)	本新田1-2.3	(2003.4.16 ~ 21)	1,080	共同住宅	なし	埋(26)
03試(2)	築地3-5-3他6筆	(2003.8.19 ~ 20)	2,578	宅地造成	飛鳥竪穴住居跡2【盛土保存】	埋(26)
30次	松山2-2-3	2003.10.3 ~ 10	142	個人住宅	奈良竪穴住居跡1【調査実施】	埋(26)
04試(1)	築地3-1-16.32	(2004.4.22 ~ 23)	976	宅地造成	なし	埋(27)
04試(2)	築地1-3-37	(2004.4.26)	165	個人住宅	なし	埋(27)
04試(3)	松山2-6-11	(2004.6.16)	309	宅地造成	なし	埋(27)
04試(4)	築地2-5-14.25.27	(2004.8.5)	280	個人住宅	なし	埋(27)
04試(5)	築地3-4-12	(2004.9.6 ~ 8)	911	宅地造成	溝1	埋(27)
05試(1)	松山2-2-4の一部	(2005.4.6 ~ 7)	313	土地分譲	なし	市内1
05試(2)	築地3-1-32.34.43	(2005.4.19 ~ 21)	549	土地分譲	なし	市内1
05試(3)	築地2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	なし	市内1
31次	築地3-1-69	2005.6.14 ~ 23 (2005.6.9 ~ 13)	120	個人住宅	古墳住居跡1	市内1
05試(8)	築地2-5-3	(2005.8.30 ~ 9.13)	567	宅地造成	平安住居跡1	市内1
32次	築地2-5-3の一部	2005.9.8 ~ 13 (2005.8.30 ~ 9.7)	132	個人住宅	平安住居跡2	市内1
05試(5)	築地2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	なし	市内1
05試(4)	松山2-4-23	(2005.10.20 ~ 21)	161	個人住宅	なし	市内1
05試(6)	仲1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	なし	市内1
05試(7)	松山2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	なし	市内2
37	松山2-6-10.13	(2006.4.13)	228	個人住宅	なし	市内3
38	仲4-3.9.12.13.24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	なし	市内3
39	築地2-3-10	(2007.1.10 ~ 20)	937	宅地造成	なし	市内3
40	築地1-1-5	2007.2.21 ~ 3.9 (2007.2.2 ~ 8)	1,047	宅地造成	奈良住居跡1、中世遺構検出	市内3
41	中ノ島1-2-5	2007.2.21 ~ 3.5 (2007.2.7 ~ 9)	1,281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内3
42	仲2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	なし	市内3
43	築地2丁目5番2	(2007.4.11 ~ 24)	668	分譲住宅	堀跡1、土坑1、旧石器ナイフ1点	市内4
44	築地3-2-10.2-14	(2008.6.9 ~ 11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
45	築地3-4-7の一部外	2008.10.1 ~ 23 (2008.9.4 ~ 30)	390	道路(上下水道)	奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡2棟、竪穴状遺構1、時期不明の溝10、土坑、ビット	市内6
46	築地3-1-33の一部.1-35の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
47	築地3-1-52	(2009.5.11.12)	121	個人住宅	ビット	市内8
48	仲2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内8
49	松山2-6-1.14.22の一部	(2009.10.17 ~ 22) 2009.10.27 ~ 11.18	449	宅地造成	平安時代竪穴住居跡1軒(住居内鍛冶炉検出)、土坑1、溝1、ビット1	市内8
50	松山2-5-3.17	(2009.11.27 ~ 12.1)	797	分譲住宅	溝1、ビット7	市内8
51	松山2-6-22.23.28の一部	(2010.5.10 ~ 13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内10
52	築地2-2-1	(2010.8.26 ~ 9.3)	694	分譲住宅	溝1、落し穴1、工事立会	市内10
53	築地3-1-11	(2010.9.10 ~ 21)	205	個人住宅	近代以降の溝3、アナグラ1、慎重工事	市内10

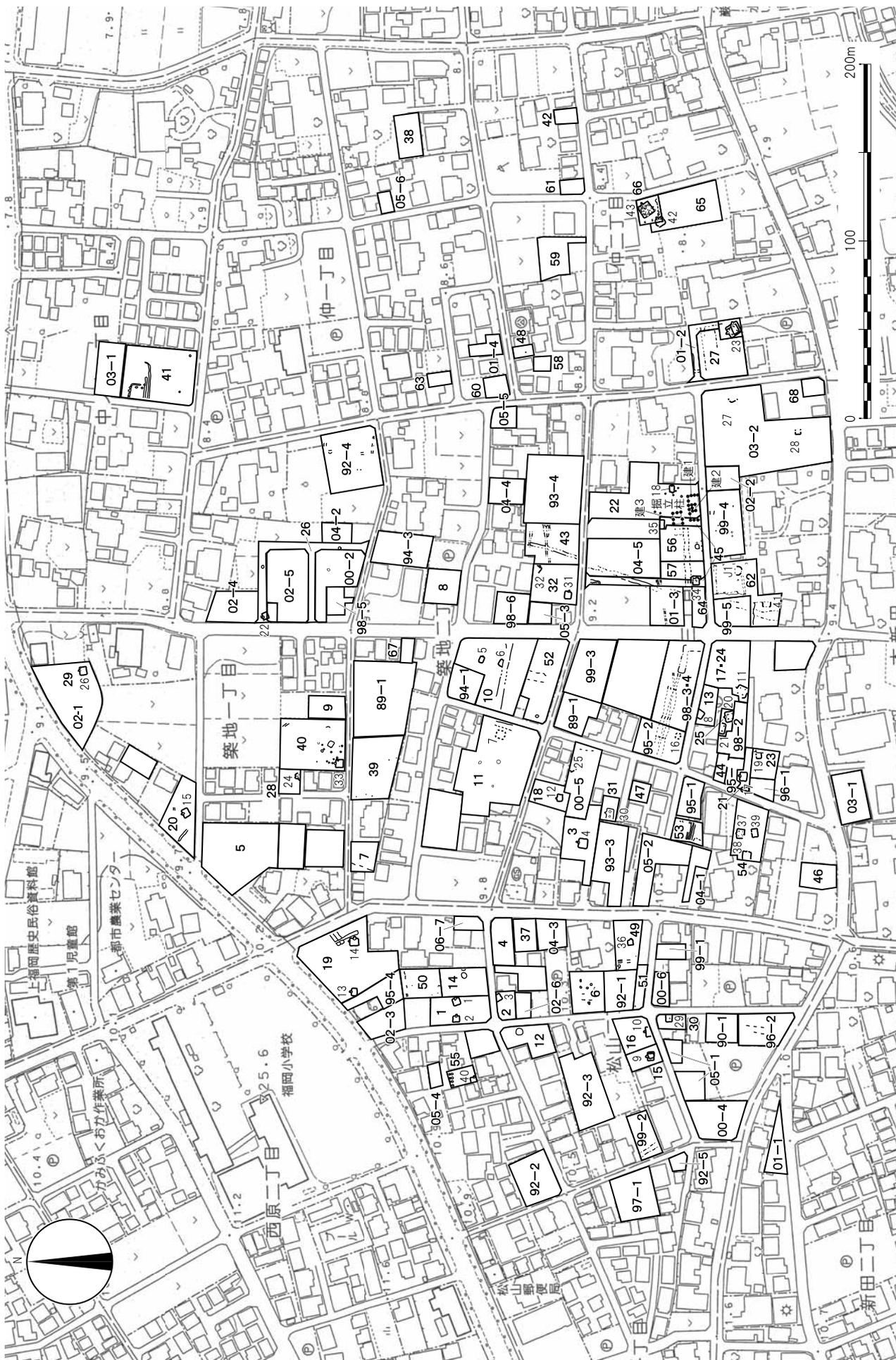
地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
54	築地 3-1-6,76 - 83	(10/4 - 11/5)9/21 - 10/1	540	宅地造成	奈良・平安住居跡 3 軒確認、西側 1 軒 の住居は盛土保存、 他 2 軒は本調査	市内 9
55	松山 2-4-24 の 一部	(2011.1.17)1.18 - 1.31	226	個人住宅	奈良平安時代の住居 跡 1 軒、掘立柱建 物跡 1 棟、本調査	市内 10
56	築地 3 丁目 4-7、4-8 の一 部	(2011.4.4 - 14)4.11 - 15	482	共同住宅	奈良平安時代掘立柱 建物跡 2 他、本調査 (一部工事立会)	市内 11

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
57	築地 3 丁目 4 番 47	(20011.4.4 - 15)	241	分譲住宅	遺構遺物なし、慎重 工事	未報告
58	仲 2 丁目 2-31	(2011.6.6 - 8) 6.14	114	個人住宅	井戸跡 1、本調査	未報告
59	仲 2 丁目 3 番 6、 3 番 9	(2011.8.8 - 11)8.11	559	個人住宅	土坑 2 他、本調査	未報告
60	仲 1 丁目 1 番 15	(2012.3.26・27)	165	個人住宅	堀跡 1、工事立会	未報告
61	仲 2 丁目 3-3		113	個人住宅		未報告
62	築地 3 丁目 5 番 11,14,19	2012.8.10 - 12.29	842	宅地造成		市内 12

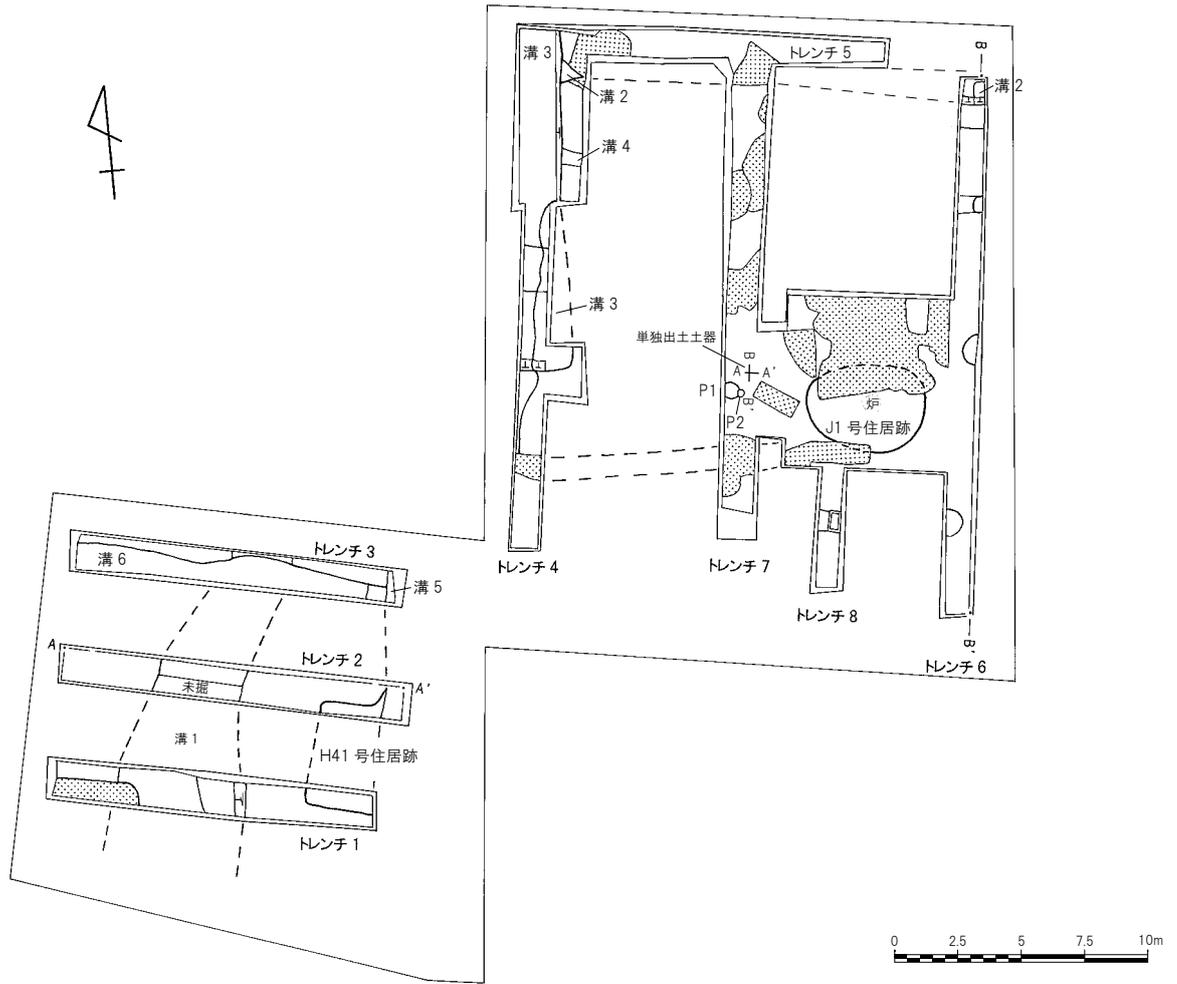
埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市
教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

第 20 表 松山遺跡住居一覧表 (単位 cm)

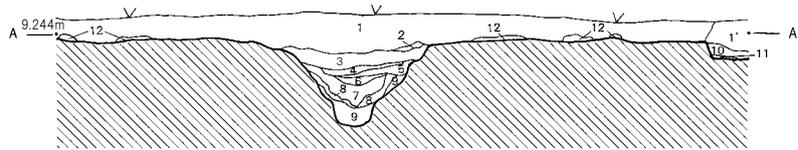
住居 番号	調査 年度	調査名	調査 率	平面形 ()は 推定	規模	炉 カマド K	設置壁	カマド		周溝	主軸方位	時期	備考	文献
								規模	cm					
1	1978	第 1 次 1 号住居	完掘	正方形	390 × 380	K	東	110 × 75				国分前半		埋蔵文化財の調査
2	"	第 1 次 2 号住居	完掘	台形	360 × 320	K	東	120 × 85				国分前半		"
3	1979	第 2 次 3 号住居	2/3	(方形)	350 × 10	K	東			一部		国分後半		埋蔵文化財の調査
4	"	第 3 次 4 号住居	完掘	方形	530 × 475	K	北	200 × 100			N-14-E	国分後半		"
5	1991	第 10 次 5 号住居	完掘	長方形	230 × 350	K	北 東					9C 2 半期		埋蔵文化財の調査 14
6	"	第 10 次 6 号住居	2/3	方形	340 × 300	K	東					9C 2 半期		"
7	"	第 11 次 7 号住居	完掘	正方形	400 × 400		遺存状態悪い					8C 4 半期		"
8	1992	第 13 次 8 号住居	3/4	(方形)	400 ×						N-10-E	8C 3 半期		埋蔵文化財の調査 15
9	1993	第 15 次 9 号住居	完掘		A440 × 350、 B420 × 310、 C260 × 300	K	東 北	A210 × 210、 B210 × 210、 C80 × 65				9C 1 半期	鉄鉢型須恵器 出土	埋蔵文化財の調査 16
10	"	第 16 次 10 号住居	1/3	正方形	560 × 560	K	北	130 × 80				8C 4 半期		"
11	"	第 17 次 11 号住居	完掘	方形	600 × 600	K	北					最大住居	黒色土師器出 土	"
12	"	第 18 次 12 号住居	完掘	方形	400 × 320	K	北			()		8C 4 半期		"と市史
13	1994	第 19 次 13 号住居	完掘	長方形	450 × 300	K	北				N-5-E	9C 1 半期		松山遺跡第 19 次調査概要
14	"	第 19 次 14 号住居	完掘	長方形	450 × 500	K	東 北				N-5-E	9C 1 半期	土錘出土	"
15	"	第 20 次 15 号住居	完掘	長方形	370 × 470	K	北西	70 × 70				7C 4 半期		松山遺跡第 20 次の調査
16	1995	7 年試掘 (2) 16 号住										N-20-W	6C	未報告
17	"	第 21 次 17 号住	完掘	長方形	480 × 400	K	北					7C 4 半期		埋蔵文化財の調査 19
18	1997	第 22 次 18 号住	完掘	長方形	240 × 460	K	東	90 × 60			N-50-E	8C 末		埋蔵文化財の調査 20
	"	第 22 次 1 号掘立	部分	長方形	東西 5 間 南北 3 間							8C 末 - 9C 初		"
	"	第 22 次 2 号掘立	部分	長方形	東西 2 間 南北 2 間							8C 末 - 9C 初		"
	"	第 22 次 3 号掘立	部分	長方形	(東西 2 間) 南北 3 間							8C 末 - 9C 初		"
19	1998	第 23 次 19 号住	4/5	長方形	260 × 290						N-30-W	8C 後半	土錘 6 点出土	埋蔵文化財の調査 21
20	1999	第 25 次 20 号住										8C 初頭	暗紋土師器	市史通史編
21	"	第 25 次 21 号住										8C 初頭		未報告
22	2000	第 26 次 22 号住	完掘		360 ×	K	北					7C 後半	14 年度完掘、 焼失住居	埋蔵文化財の調査 23
23	"	第 27 次 23 号住	完掘	台形	600 × 720	K	北					8C 半ば		"
24	2001	第 28 次 24 号住	1/2		340 ×	K	北西					8C 中葉		埋蔵文化財の調査 24
25	2000	12 年度試掘 5	2/3				遺存状態悪い							埋蔵文化財の調査 23
26	2002	第 29 次 26 号住	完掘	長方形	420 × 360	K	北					7C 後半		埋蔵文化財の調査 25
27	2003	15 年度試掘 27 号 住	一部		(盛土保存)								プランのみ確 認	埋蔵文化財の調査 26
28	"	15 年度試掘 28 号 住	1/2		(盛土保存)								プランのみ確 認	"
29	"	第 30 次 29 号住	完掘	長方形	360 × 420	K	東					9C 前半		"
30	2005	第 31 次 30 号住	完掘	長方形	360 × 600	K	北						土錘出土	市内遺跡群 1
31	"	第 32 次 31 号住	完掘	長方形	380 × 330	K	東				S-65-E	9C 中葉		"
32	"	第 32 次 32 号住	1/2	長方形	東西 4 m × 南北 3 m 以上	K	東				S-85-E			"
33	2006	40 地点 H33 号住	完掘	方形	455 × 420	K	北	98 × 154			N-5-E	8C 後半		市内遺跡群 3
34	2008	45 地点 H34 号住	完掘	方形	364 × 361	K	東	122 × 125			N-96-E			市内遺跡群 6
35	2008	45 地点 H35 号住	1/2	(方形)	504 × (222)								焼失住居	市内遺跡群 6
36	2009	49 地点 H36 号住	完掘	方形	280 × 290	K	東	105 × 100			N-92-E	8C 後半	鍛冶炉 1	市内遺跡群 7
37	2010	54 地点 H37 号住	完掘	方形	434 × 524	K	北	70 × 86			N-13-E	8C1 四半期		市内遺跡群 9
38	2010	54 地点 H38 号住	一部	方形	(440) × 468	K	東	95			N-107-E	8C1 四半期	プラン確認	市内遺跡群 9
39	2010	54 地点 H39 号住	完掘	方形	336 × 459	K	北	79 × 101			N-4-E	8C1 四半期		市内遺跡群 9
40	2011	55 地点 H40 号住	3/4	(方形)	(300) × (320)	K	東	95 × 123			N-90-E	9C 前半		市内遺跡群 10
41	2012	62 地点 H41 号住	3/4	(方形)	410 × (300)	K	北				N-18-E			市内遺跡群 12
42	2012	65 地点 H42 号住	完掘	方形	448 × 444	K	東	112 × 125			N-68-E			未報告
43	2012	66 地点 H43 号住	完掘	方形	704 × 700	K	東	105 × 150			N-68-E			未報告



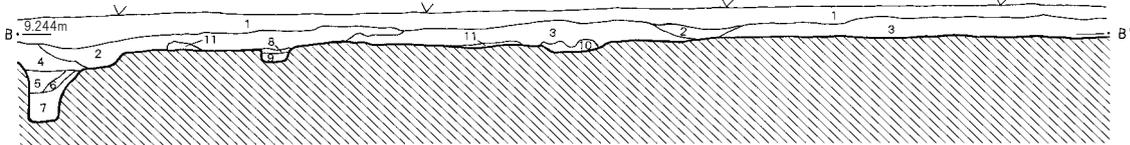
第57図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)



トレンチ 2



トレンチ 6



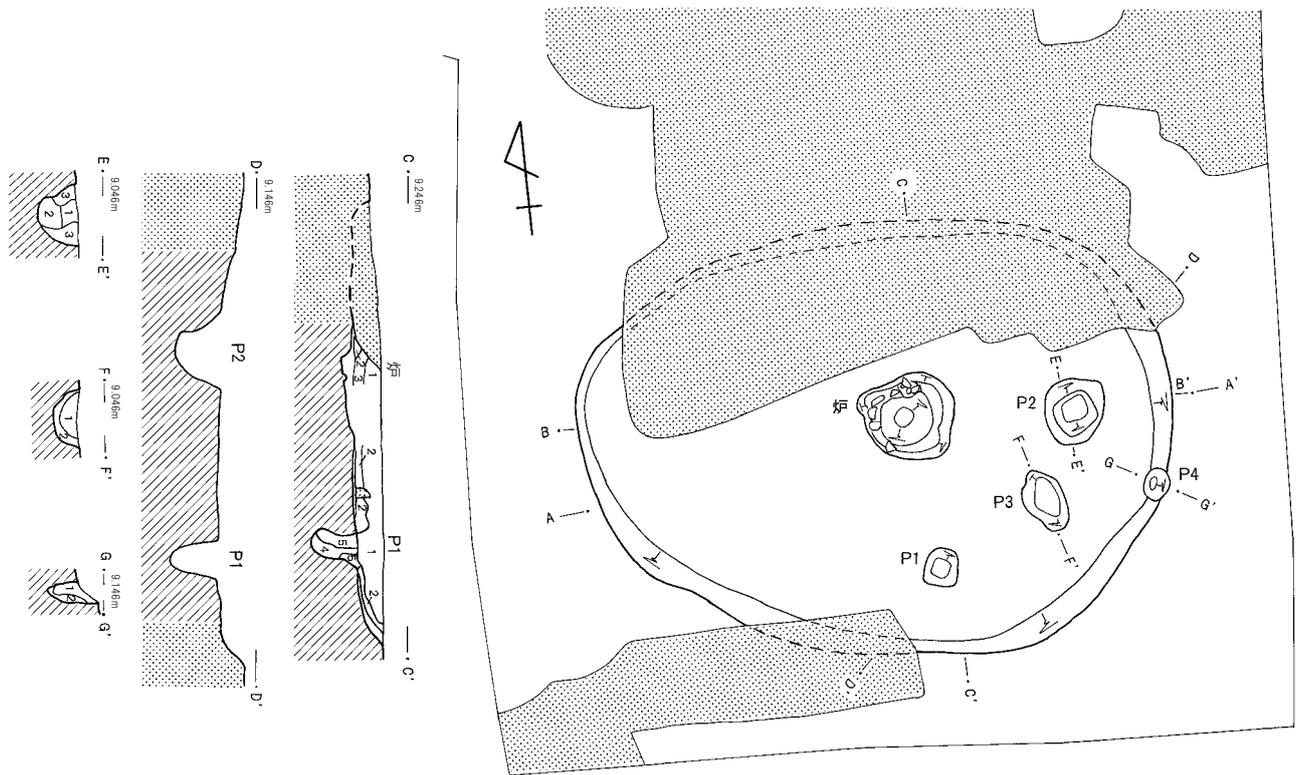
A-A'

1. 表土 黒褐色土 締り弱、～3mm ローム粒少し含む
- 1'. 焼土粒含む
2. 黒褐色土 締り弱、～5cm 大ロームブロックとの混合土
3. 暗褐色土 締り有、～5mm ローム粒多く含む
4. 暗褐色土 締り弱、～3cm 大ロームブロック極多く含む
5. 黒褐色土 締りやや有、～3mm ローム粒少し含む
6. 暗褐色土 締りやや有、～5mm ローム粒極多く含む
7. 黒褐色土 締り有、～3mm ローム粒少し含む
8. 褐色土 締り有、硬い、ローム粒主体で1cm 大ロームブロック少し含む、黒褐色土少量混入
9. 黄褐色土 締り有、ロームブロック主体
10. 黒褐色土 締り有、～3cm 大ロームブロック少し、～5mm ローム粒多く含む
11. 黒褐色土 締り有、～5mm ローム粒少し含む
12. 地山ローム

B-B'

1. 砂利、道路面
2. 暗褐色土 非常に硬く締る、道路面、ロームブロック極多く含む
3. 暗褐色土 非常に硬く締る、道路面、1～5mm ローム粒多く含む
4. 暗褐色土 締り有、硬い、ローム粒極多く含む
5. 黒褐色土 締り有、ロームブロック少し含む
6. 黒褐色土 締り有、ローム粒多く含む
7. 黄褐色土 締り弱、ロームブロック・粒主体
8. 暗褐色土 締り有、1mm ローム粒少量含む、溝かイモビツ
9. 暗褐色土 締り有、1～5mm ローム粒やや多く含む、溝かイモビツ
10. 褐色土 締り有、1mm ローム粒・焼粒少量含む、縄文土器出土、縄文時代のシミ
11. ソフトローム

第 58 図 松山遺跡第 62 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)



J1号住居跡

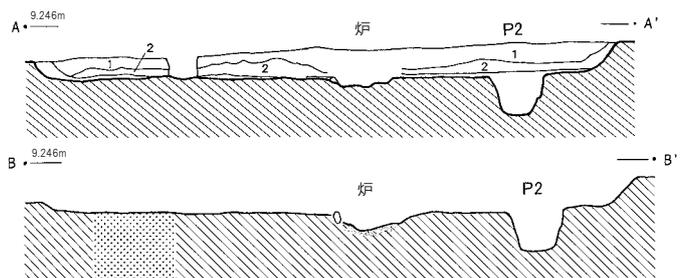
- 1. 褐色土 (やや暗い) 締り有、1~3mmローム粒少し、~3mm焼土粒極少し含む
- 2. 褐色土 締り有、1~3mmローム粒多く含む
- 3. 暗褐色土 締り有、1~3mmローム粒・~3mm焼土粒少し含む
- 4. 黄褐色土 締り弱、ややサラサラ、ローム粒主体
- 5. 黄褐色土 締り有、1cm大ロームブロック主体、褐色土混入

ビット2

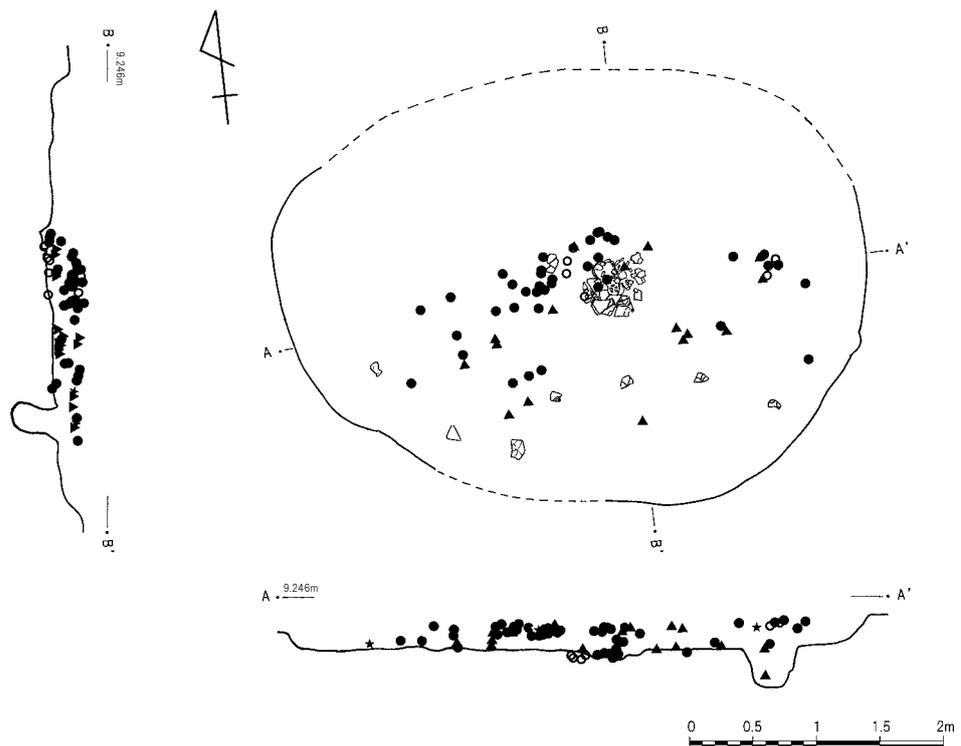
- 1. 暗褐色土 締り有、1mmローム粒少し含む
- 2. 褐色土 締り有、1mmローム粒少し含む
- 3. 褐色土 締り有、1~3cm大ロームブロック少し、1~3mmローム粒多く含む

ビット3・4

- 1. 暗褐色土 締り有、1~3mmローム粒やや多く含む
- 2. 褐色土 締り有、1~3mmローム粒多く斑状の塊



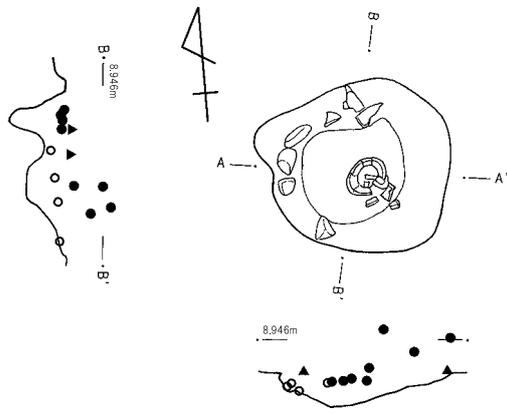
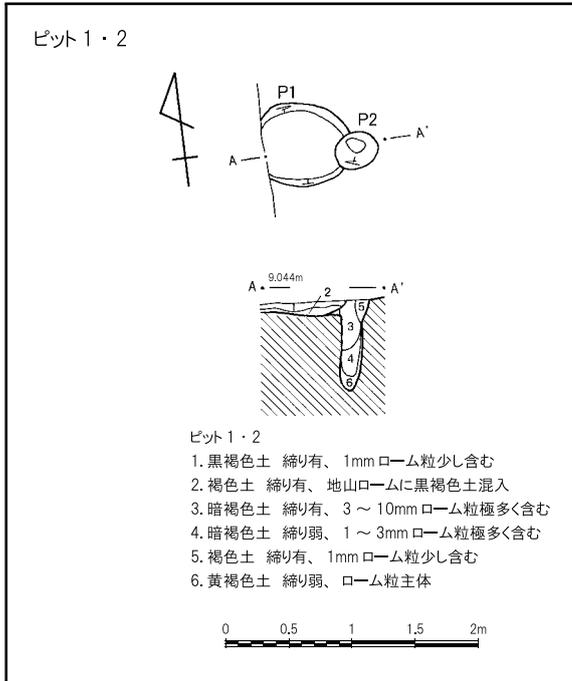
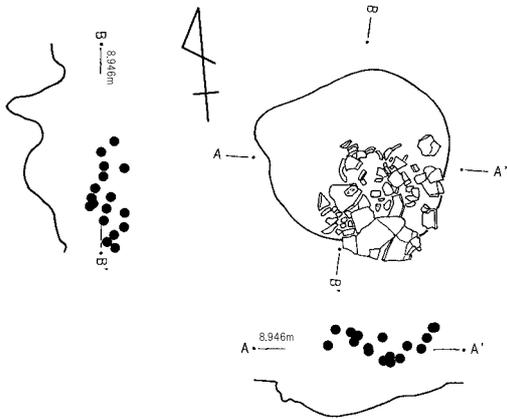
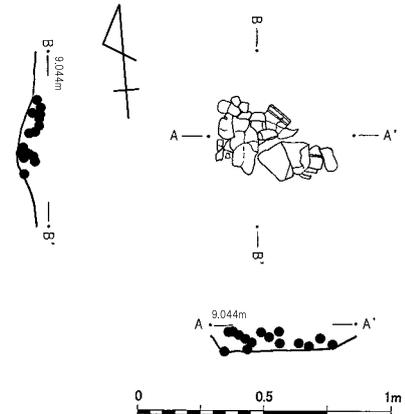
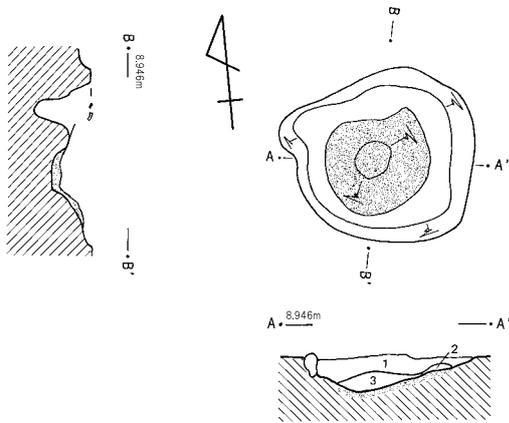
遺物出土状況図



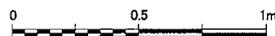
第59図 松山遺跡第62地点J1号住居跡遺物出土状況図 (1/60)

炉・掘方

トレンチ7 中央部単独出土土器

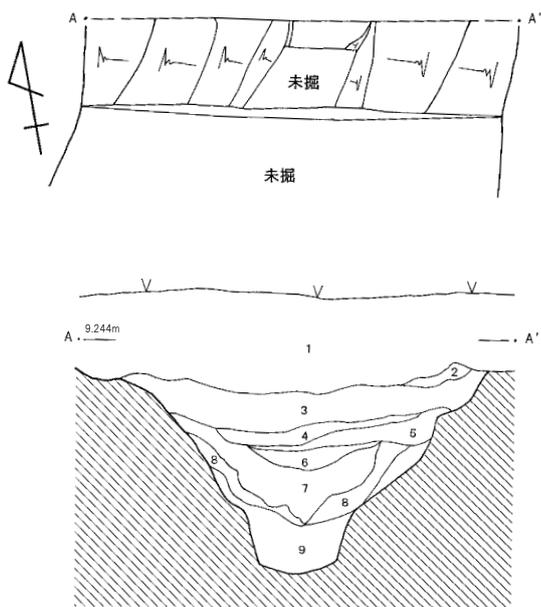


- 炉
1. 暗褐色土 締り有、1～3mmローム粒少し、1～3mm焼粒やや多く含む
 2. 褐色土 締り有、1～3mm焼粒多く含む
 3. 褐色土 締り有、1～5mm焼粒多く、1mm炭少し含む

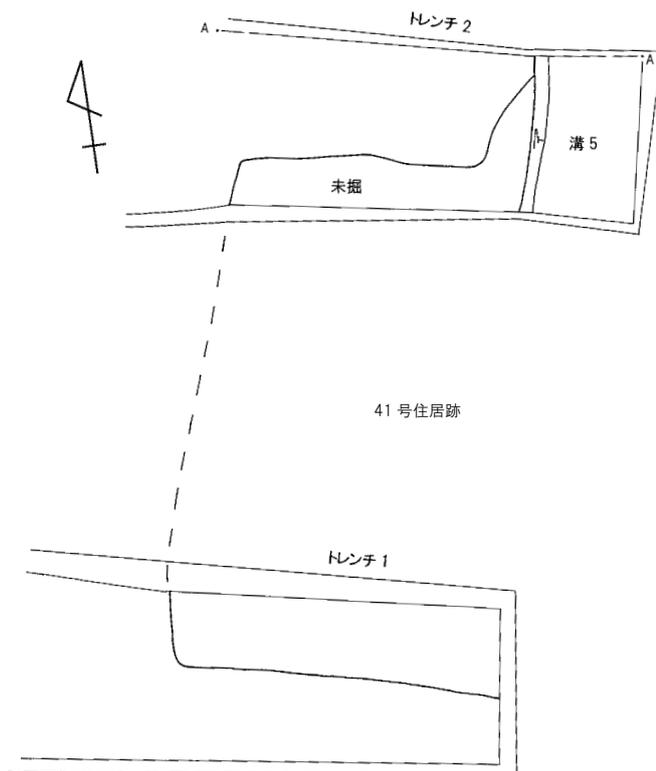


第60図 松山遺跡第62地点炉・掘方・トレンチ7中央部単独出土土器遺物出土状況図(1/30)ピット(1/60)

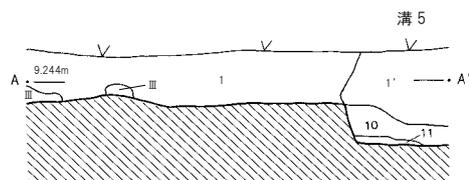
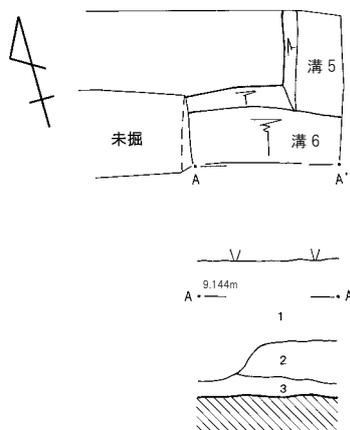
溝1



トレンチ1・2



溝5・6



溝1

- 1. 表土 黒褐色土 締り弱、～3mm ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り弱、～5cm 大ロームブロックとの混合土
- 3. 暗褐色土 締り有、～5mm ローム粒多く含む
- 4. 暗褐色土 締り弱、～3cm 大ロームブロック極多く含む
- 5. 黒褐色土 締りやや有、～3mm ローム粒少し含む
- 6. 暗褐色土 締りやや有、～5mm ローム粒極多く含む
- 7. 黒褐色土 締り有、～3mm ローム粒少し含む
- 8. 褐色土 締り有、硬い、ローム粒主体で1cm 大ロームブロック少し含む、黒褐色土少量混入
- 9. 黄褐色土 締り有、ロームブロック主体

溝5・6

- 1. 表土 黒褐色土 締り弱、～10mm ローム粒多く含む
- 2. 暗褐色土 締り有、～10mm ローム粒極多く含む
- 3. 暗褐色土 締り有、～3cm 大ロームブロック少し、～10mm ローム粒極多く含む

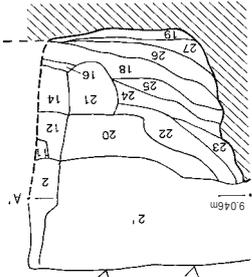
溝5

- 1. 表土 黒褐色土 締り弱、～3mm ローム粒少し含む
- 1'. 焼土粒含む
- 10. 黒褐色土 締り有、～3cm 大ロームブロック少し、～5mm ローム粒多く含む
- 11. 黒褐色土 締り有、～5mm ローム粒少し含む
- Ⅲ. ソフト地山ローム

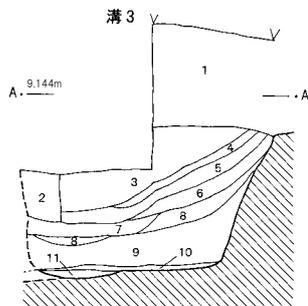
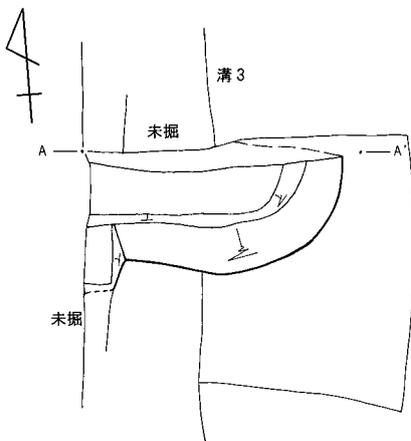
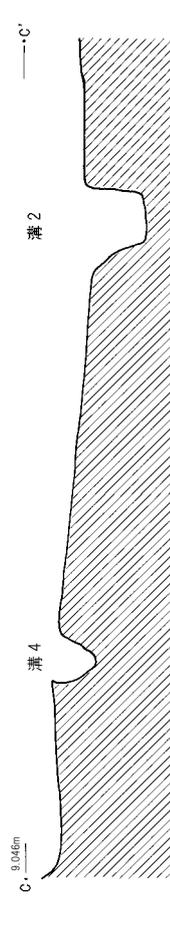
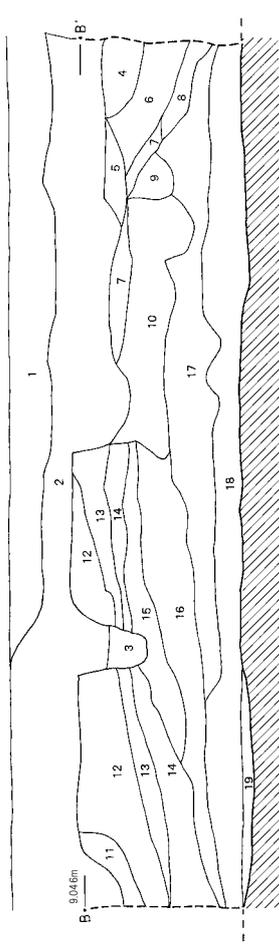
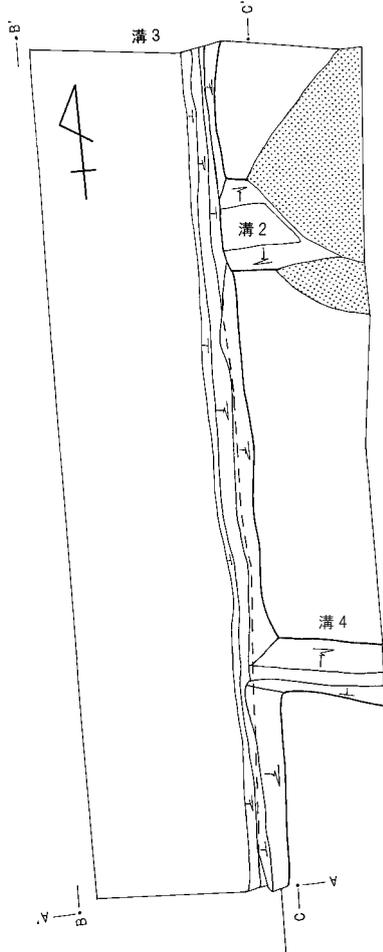


第61図 松山遺跡第62地点溝1・5・6 (1/60)

溝3



1. 盛土・ローム・ガラ 硬く締る
2. 耕作土 暗褐色土 締り弱
- 2'. ややロームブロック少量含む
3. 根切溝 暗褐色土 締り弱、～5mm ローム粒多く含む
4. 黒褐色土 締り有、1mm ローム粒極少し含む
5. 暗褐色土 締り有、～5mm ローム粒多く含む
6. 暗褐色土 締り有、～1cm ローム粒多く含む
7. 黒褐色土 締り有、～5mm ローム粒やや多く含む
8. 暗褐色土 締り有、～1cm ローム粒極多く含む
9. 黒褐色土 締り有、～1cm ローム粒やや多く含む
10. 褐色土 締り有、1～3cm 大ロームブロック極多く含む
11. 黒褐色土 締り有、～5mm ローム粒多く含む
12. 褐色土 締り有、～5cm 大ロームブロック少し、～5mm ローム粒極多く含む
13. 黒褐色土 締り有、3cm 大ロームブロック少し、～5mm ローム粒多く含む
14. 褐色土 締り有、～5cm 大ロームブロックと暗褐色土の混合土
15. 暗褐色土 締り有、1～2cm 大ロームブロック少し、～5mm ローム粒多く含む
16. 褐色土 締りやや有、～10cm 大ロームブロックとローム粒・暗褐色土の混合土
17. 黄褐色土 締り弱、～10cm 大ロームブロック主体、褐色ローム粒混入
18. 黄褐色土 締り弱、～10cm 大ロームブロック主体、ロームブロックの間に隙間がある、黒色土混入
19. 褐色ローム主体 締りやや有、粘性やや有、一度掘り下げられた地山、5～10cm 厚、ぼこぼこ
20. 黒褐色土 締り弱、～5mm ローム粒多く含む
21. 黒褐色土 締り弱、1cm 大ロームブロック極多く含む
22. 褐色土 締り弱、サラサラ、ローム粒子主体
23. 黒褐色土 締り有、～5mm ローム粒少し含む
24. 暗褐色土 締り有、～5mm ローム粒極多く含む
25. 黒褐色土 締り有、3cm 大ロームブロック・～5mm ローム粒少し含む
26. 褐色土 締り無、ローム粒主体、サラサラ
27. 黒褐色土と26層の相互層



1. 埋土 ロームと瓦礫の混合土
2. 暗褐色土 締り有、1～10mm ローム粒多く含む
3. 黒色土と暗褐色土と～5mm ローム粒の混合土 締り有
4. 黒色土 ～5mm ローム粒極多く含む
5. 暗褐色土 締り有、1～5mm ローム粒極多く含む、黒色土混入
6. 黒色土主体 ～10mm ローム粒極多く含む
7. 溝3の16層と同じ
8. 暗褐色土 締り弱、粒子が水成でザクザクする
9. 溝3の17層と同じ
10. 溝3の18層と同じ
11. 溝3の14層と同じ



第62図 松山遺跡第62地点溝2・3 (1/60)

除去後、人力による表面精査を行い、縄文時代中期の住居跡1軒、奈良・平安時代の住居跡1軒、古代の溝1条、中世以降の溝5条等を確認した。遺跡確認面までの深さは約60cmで、盛土により遺構の保存が可能であったが、一部地盤調査の結果地盤改良を行うことになった宅地と道路部分については、遺構への影響が避けられないため申請者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。本調査は2012年7月23日から8月1日まで行い、縄文時代中期の住居跡1軒、中世溝1条を調査した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

遺構と遺物

J1号住居跡

【位置・形状・規模】北側調査区の中央西側に位置する。主軸方位は東である。北側は抜根により壊されている。平面形は楕円形で、規模は長軸が東西4.15m、南北推定3.5mである。深さは確認面から25cmである。

【炉】中央のやや東寄りに位置し、炉の西半分が石で囲われる。上端東西78×南北68cm、下端東西65×南北58cm、深さ23cm、焼土面の範囲41×36cm、石囲いの範囲は径60cmである。炉の上面に深鉢土器一個体分の土器が出土した。

【ピット】4基検出し、P1、P2が支柱穴と思われる。西側の柱穴は未検出である。

【時期】出土遺物から縄文時代中期加曽利E期。

中央部単独出土土器・ピット

北側調査区中央、J1号住居跡の西2.5mに1個体分の土器がつぶれた状態で出土した。土器は猪沢式。ピットは2基検出した。

第21表 松山遺跡第62地点J1号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	円形	29×27	15×13	40	土器
P2	円形	56×48	20×18	35	
P3	楕円形	51×32	33×20	23	
P4	円形	26×18	10×5	24	

第22表 松山遺跡第62地点遺構一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	不規(円形)	(135)×133	(127)×108	14	
P2	円形	68×57	28×23	75	

溝

6条検出した。

溝1は他の調査区でも検出している南北方向の溝で、時期は古代である。保護層を確保できるため保存の措置を執ったが、確認のため一部試掘した。上幅335cm、下幅55cm、深さ165cm。断面は急峻なV字形で底が更に一段深くなる。出土遺物はない。

溝2は東西方向の溝で調査区北側に位置する。17m検出した。上幅75cm、下幅35cm、確認面からの深さ50cm。

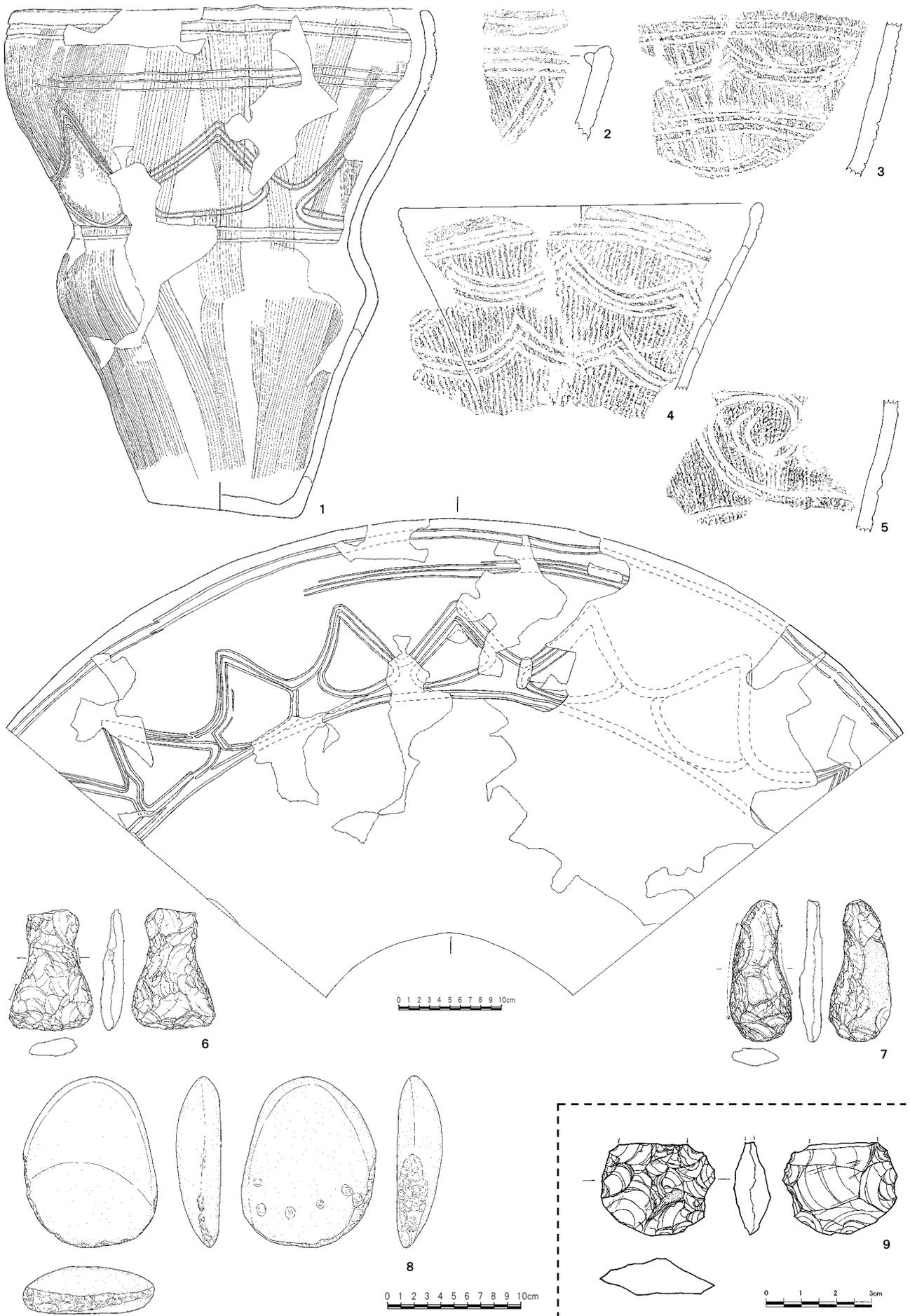
溝3は南北方向の溝で、北側の64地点で検出した溝4と同一の溝と思われる。西側は隣地の境界まで調査できなかったため、正確な断面形状や幅は不明である。底はほぼ平坦で、垂直に近い急傾斜で立ち上がる。北側から9.5m南で西側へ曲がるもしくは、溝が終わる。底の方には水分によって酸化したロームが堆積する。14m検出した。上幅210cm～、下幅150cm～、確認面からの深さ115cm。

溝4は東西方向の溝で溝2の3m南に位置する。溝3より新しい。1m検出した。上幅45cm、下幅10cm、確認面からの深さ30cm。溝5は南北方向の溝で調査区南側に位置する。H41号住居跡、溝6より新しい。10m検出した。上幅90cm～、下幅70cm～、確認面からの深さ30cm。溝6は東西方向の溝で調査区南側に位置する。12.5m検出した。溝1より新しく、溝5より古い。上幅60cm～、下幅35cm～、確認面からの深さ25cm。

出土遺物

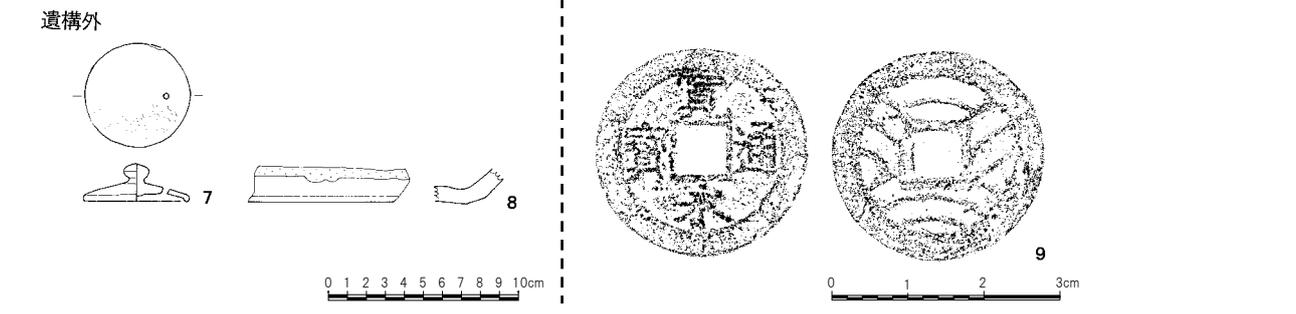
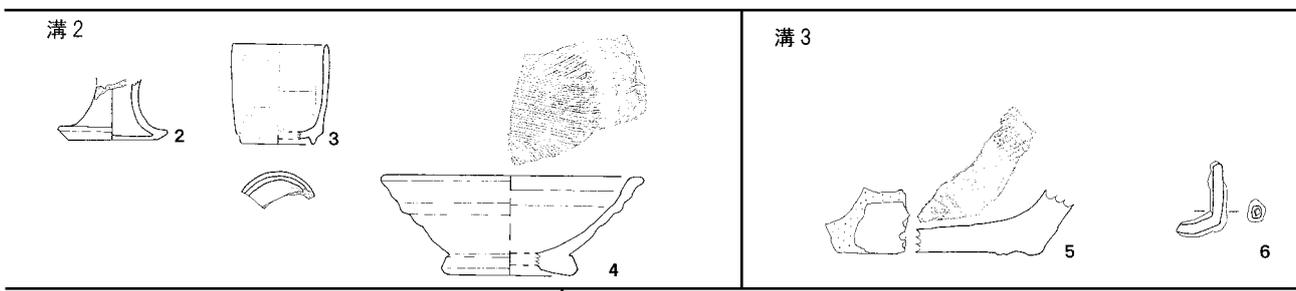
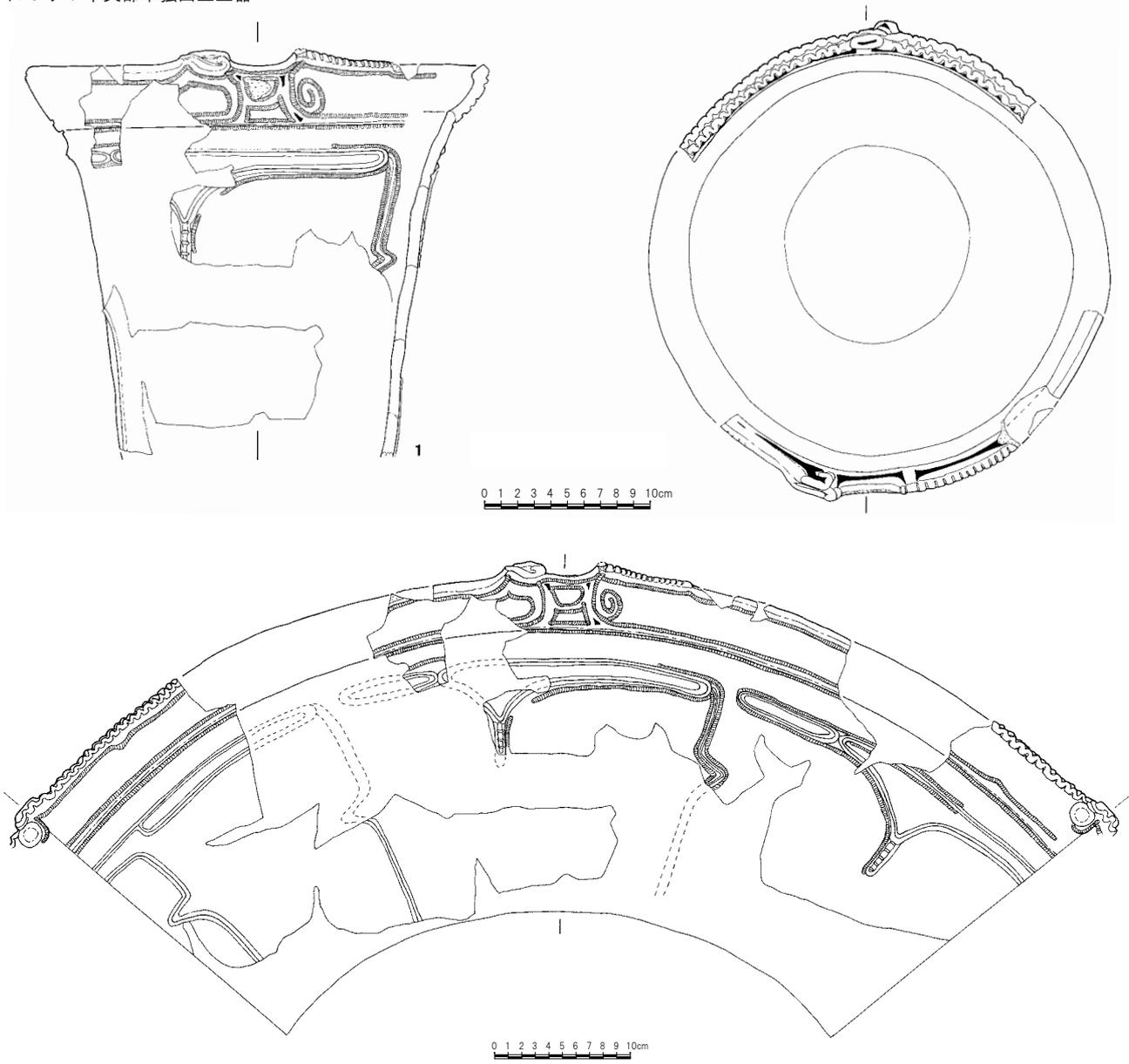
J1号住居跡出土遺物

J1号住居出土の土器は全てがいわゆる連弧文の土器である。1は、口縁部を1/3程欠損するが、器形・文様のほぼ全形をうかがえる。器厚は全体的に分厚く、底部からの立ち上がり、石膏による復元を修正しても大きく傾いている。地文は8から10本単位の櫛刃状工具による条線が施文。文様は口唇部直下の横位2本の沈線と頸部の横位2本の沈線は、先端が角張った工具で、1本ずつ引いて描いたものである。それ以外の弧線は半裁竹管の工具により2本単位で、引かれたもので、一本を重ね引きをして見た目3本単位となる。重なった部分は深くなっている。弧線は、展開図に示したように7単位となろう。2・3は、地文が条線である。2は、口唇部内側に粘土紐を貼り付けた「フ」の字口縁で、直上に沈線が加えられ、口



第 63 図 松山遺跡第 62 地点 J 1 号住居跡出土遺物 (1/4・2/3)

トレンチ7 中央部単独出土土器



第64図 松山遺跡第62地点トレンチ7 中央部単独出土土器・溝・遺構外出土遺物 (1/4・1/1)

唇部直下には3本の沈線が描かれている。3は、胴部破片である。2・3の沈線を引いた工具は、先端が角張ったヘラ状工具である。4・5は、地文が燃糸文で、4は、現存1/4で(推)直径27cm。5は胴部破片である。4・5ともに、沈線を引く工具は、上記2・3と違い先端が緩く丸い工具である。4は、口唇直下が3本、弧線が4本で描かれている。5は渦巻きが描かれている。色調・胎土、沈線の描き方は、4に似ている。同一個体の可能性がある。これらの連弧文土器には、沈線間の磨り消しはみられない。

6・7は打製石斧である。6は先端部が一部欠損しており、長さ9.1cm、刃部幅6.25cm、厚さ1.5cm、重さ94.9g、ホルンフェルス製。7は完形で、長さ10.6cm、刃部幅4.6cm、厚さ1.7cm、重さ88.2g、凝灰岩製。8は、磨り石で図示した、下端側面全面に敲打痕がある。石質閃緑岩で加熱を受け、脆くなっている。長さ12.8cm、幅10.05cm、厚さ3.65cm、重さ653.4g、閃緑岩製。9はスクレイパーで基部が欠ける。長さ2.6cm、幅3.3cm、厚さ1.05cm、重さ9.4g、チャート製。

トレンチ7中央部単独出土土器

いわゆる阿玉台1a式であろう。口縁部は1/2程度が現存。胴部は部分的に欠落し、底部は見つかっていない。色調黒褐色。胎土には雲母の混入はないがよく精練されている。口縁部は口縁部文様帯に一致し、内面に稜がついて内湾する。胴部文様帯の境には頸部無文帯がある。

口縁部文様は、図正面に又状波頂部を作出し、その直下に連続し密な爪形文で(角押し文ではない)「横D字状」区画を上「台形文様」を下にして対向し、右に渦巻き、左に楕円形を描いている。その間に三角沈刻文が三カ所に施される。

口唇部に図正面右側には縦に刻みを加え、反対側には粘土紐を波状に二重に並んで乗せている。内面は又状波頂部を中心に、玉抱き三叉文と三角沈刻文を連結して一直線となった沈刻が2個並んでいる。

胴部文様は断面三角形の隆帯で、横位の幅1cm(隆帯頂部間)と狭い杵状文を施し、杵の境から5本の懸垂文が付けられている。その懸垂文の2本は、胴部中央に刻みが付いた隆帯から上方にゆるく二股に分かれている。他の3本の懸垂文は途中で強い「つの字状文」に施されるが、1本は向きが反対になっている。こうした懸垂文は阿玉台の要素である。内面の磨

きは非常に丁寧で、阿玉台式土器特有の磨きで、勝坂式等に見られる密な磨き痕が見られない。阿玉台式土器の内面処理は指でおこなったものか。筆者にはよく分からない。

以上、胴部文様を表出した断面三角形の隆帯、隆帯に刻みの施し方、幅の狭い杵状文、口唇部内面の三角沈刻文等から、また、内面の処理の仕方から阿玉台1a式(西村正衛1970「千葉県小見川町阿玉台貝塚」『学術研究19』早稲田大学教育学部、塚本師也2008「阿玉台式」『総覧縄文土器』アム・プロモーション)と考えてみた。

次に胴部文様の懸垂文で文様構造に若干ふれておきたい。懸垂文の5本は略等間隔にほどこしているが、図正面に対して、左に「隆帯刻み文」(A)、右に「つの字状文」(B)を置いている。これをA+Bとすると、図正面の裏には、「つの字状文」は反対向きに付けられたB*とAが組み合わさって、A+B*を構成している。しかも、もう一つB*があって、全体を、A+B+B*+B*となり、5単位文様となる。この5単位は、あくまでA+Bの2項対立を基本にして、Bに対する対立をB*+B*として表現し、全体の二重の2項対立として具現した結果、5単位の文様構造が成立したと想定できるのである。『Bに対する対立をB*+B*』として想定した。こうした構造は、単純な2種の文様のみで、5単位の文様を生成することにあるのである。中期土器の文様の基本配列構造にはいくつか存在し、上記例でも型式をこえて長く維持されていることが分かる。きせずして5単位文様の典型についてふれた。それにしても口縁部文様が欠落していたのは残念である。いずれにしろ阿玉台1a式期に5単位文様が既に確立している例である。(笹森健一)

溝2出土遺物

2は灰釉陶器灯明脚付受皿、信楽産、19世紀。3は染付磁器猪口、瀬戸・美濃産19世紀後半。4は鉄釉陶器搦鉢、瀬戸・美濃産。

溝3出土遺物

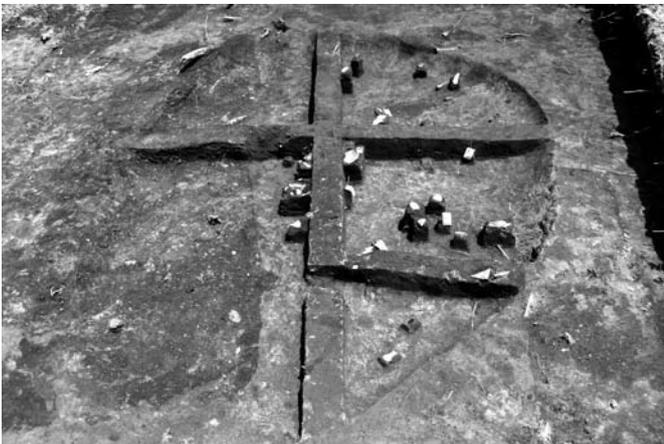
5は陶器搦鉢底部、堺産、18世紀後半～19世紀。6は鉄製鋳。

遺構外出土遺物

7は染付磁器急須蓋、肥前産、19世紀後半。8は透明釉土器。9は寛永通宝四文銭、(11波)径2.8cm、方孔径0.6cm、厚さ0.13cm。



J1 号住居跡 全景 (西から)



J1 号住居跡 遺物出土状況



J1 号住居跡炉 遺物出土状況



H30 号住居跡鉄器出土状況



J1 号住居跡炉



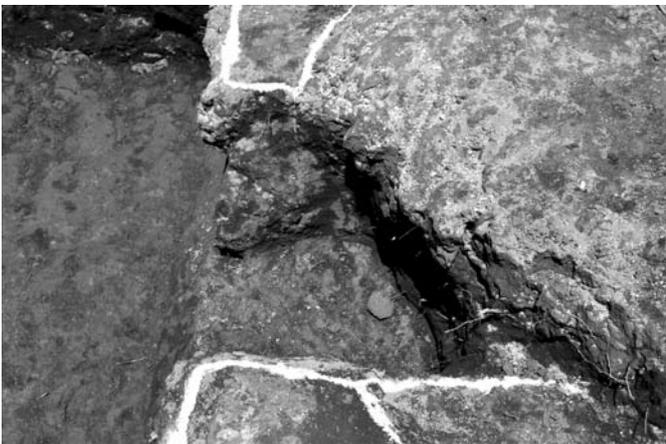
トレンチ 7 中央部 単独出土土器



溝 1 土層



溝 3



溝 2



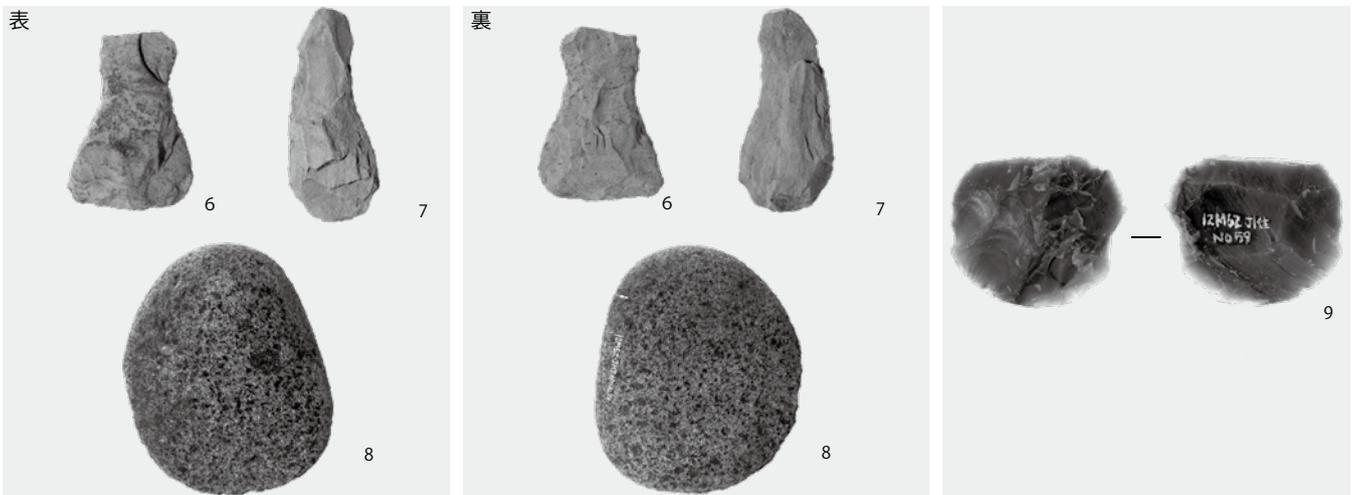
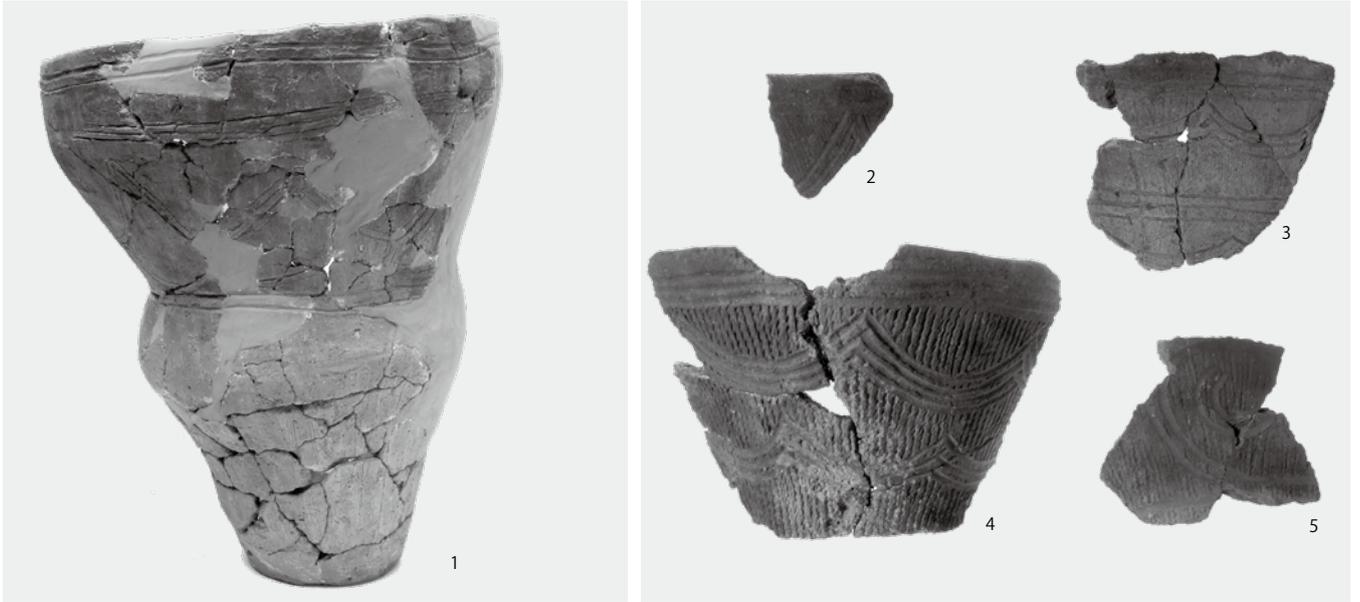
溝 4



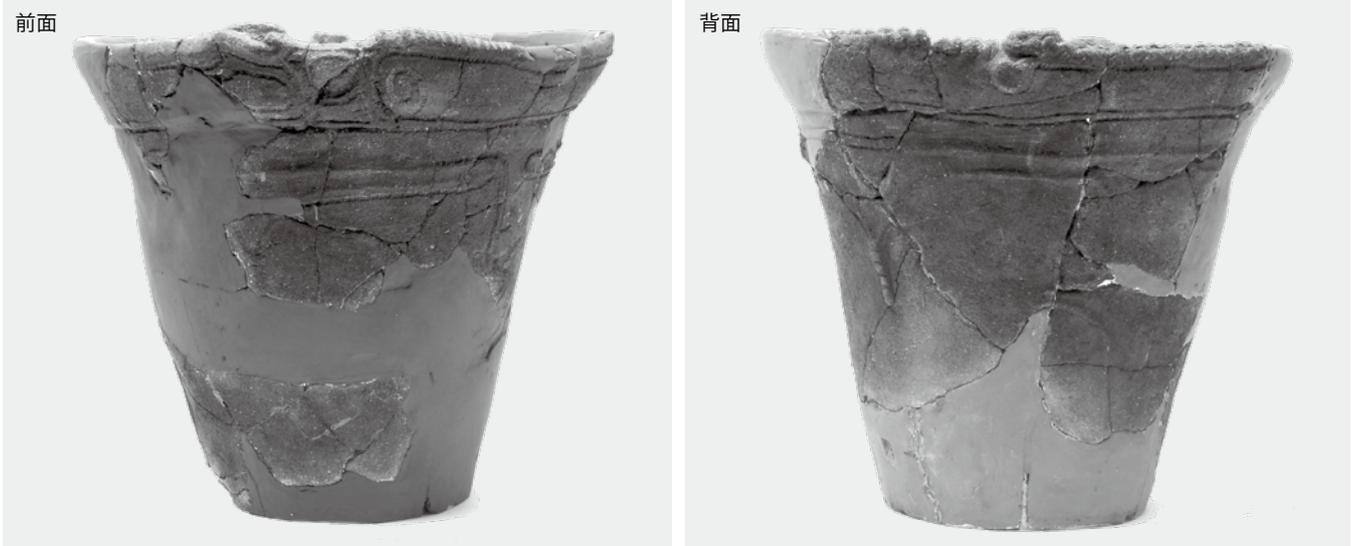
溝 5・6



調査風景



J1 号住居跡 出土遺物 No.1 ~ 9



トレンチ 7 中央部 単独出土土器 No.1

遺構外 出土遺物 No.9